



久留米大学

御井図書館ニュース

No.79 2012年6月1日発行

忘れていた読書の喜び

法科大学院長 阿部和光

仕事に追われ、最近、ふと本を読まなくなったことに気づき愕然とした。「愕然」といえば「大げさな」と言われるかもしれない。しかし私にとってはまさに「愕然」か、さもなければ「驚愕」という表現がふさわしい。

私が慌ただしい生活を送るようになったのは、5、6年前からである。日々の仕事に追われる生活は、次第に心の余裕を奪っていく。そしていつのまにか、私は読書から疎遠になっていたのだ。そのことに気づいたとき、なんだか人生の貴重な時間を失ってしまったように感じて、愕然としたのである。過ぎ去った時間は、一生取り返せないという焦燥感に似た思いもあった。

もちろん、この間、まったく活字を読まなかったのではない。私の専攻分野の論文や著書は、以前と同様に読んできた。しかしそれは「読書」ではない。仕事の一部であり飯の種だから読むのであり、必要に迫られて読まざるを得ないのだ。外的に強制されて読んでいるのであって、そんなものは「読書」ではない。読書はやはり趣味や娯楽の類（たぐい）であり、自由、気ままに本を読むことだ。

私が「読書」を知ったのは小学校時代である。現代とは時代も違うが、私の故郷は田舎であり、かつ赤貧洗うがごときわが家では、読書のために本を買う余裕はなかった。そもそも故郷の村には、書店など気のきいたものもなかった。だから小学校に入学し、図書室で、生まれて初めて読書の対象となる本と出会ったのである。図書室といっても、教室の半分くらいの広さの部屋に、本棚だけが置かれていた。蔵書もわずかなものであったが、小学生にとっては読み切れないほどの本が並んでいたもので、びっくりしたものである。私は図書室の本と出会って、生まれて初めて「文化なるもの」に触れたのだ。

本を読む楽しみを知った私は、放課後遅くまで本棚の間でうずくまって、貪るように本を読んだ。時を忘れ、夕方、薄暗くなるまで図書室で至福の時を過ごし、見回りに来た教師に、「もう帰れ」と言われ、渋々読書を中断して下校することが多かった。当時の私は知識を修得する目的もなく、ただ楽しいから本を読んだ。それが私の読書の原点であったが、それこそ読書の真髄ではないか。

毎日の仕事に追われ、子どものように「無邪気に本を読む楽しみ」を忘れていたことに気づき驚いたのだが、気づいてよかった。私に残された人生の時間は決して多くはない。そうであるからこそ、できるだけ読書を楽しむ時間をつくり出したい。「楽読」こそ、人生の至福の時である、と思う今日この頃である。

「私にとって」

経済学部文化経済学科 3年 吉野裕司

今回ゼミの先生にこのような機会を与えていただいて何を書こうかと思いました。今までの自分の人生で本にあまり触れることがなかったからです。

大学3年生にもなってあまり本を読んだことがないというのは恥ずかしいことですが、そんな私自身が本当に関心、興味をもてた本について書こうかと思いました。

中学生の頃、暇つぶしに図書館に立ち寄り何も気にせず手に取ったその本は、「It(それ)」と呼ばれた子」著者はデイヴ・ベルザーです。この本は、著者本人が幼いころ、実の母親に酷い虐待を受けていた実話を基に書かれています。とても繊細に書かれており中学生だった私の頭の中に入ってきました。虐待などは身近で起こってはいないし、いけないものが私の間近で起こっているかのような気持ちになりました。母親に包丁で刺されたり、真冬のベランダで寝かされたりと、当時の私にはあまりにも影響が強かったです。この本は全部で3部に分かれており、初めて完結編まで読みました。その後私は、現在の日本の虐待の現状、傾向、子ども達への虐待に関することを調べ、研究発表をしてきました。現在でも虐待のニュースを耳にするとこの本を思い出し、あの頃の自分に帰ることがあります。

私は大学3年生になり、就職活動で「興味をもった本は何か」と聞かれたら迷うことなく「It(それ)」と呼ばれた子」と答えると思います。中学生が読む内容かもしれないけれど私にとっては大切な本であり、私の考え方に影響を与え、虐待に関する知識、もし私自身に子どもが生まれたときに虐待は絶対にしない、など様々なことを教えてくれた本です。虐待などの問題についてこれからも考えて、この本のことを忘れず私は生きていきます。

私にとって人生の糧にします。



【平成 24 年度 御井図書館運営委員紹介】

附属図書館長	石川 捷 治 教授 (法学部)
文学部	原岡 薫 教授 三ノ上 芳一 教授
法学部	石川 真人 教授 藺田 史 講師
経済学部	山下 純一 教授 清木場 東 教授
商学部	野田 秋雄 教授 奥井 秀樹 准教授
大学院比較文化研究科	浅見 良露 教授 (経済学部)
大学院心理学研究科	津田 彰 教授 (文学部)
大学院ビジネス研究科	野田 秋雄 教授 (商学部図書館委員長兼務)
法科大学院	松本 博 教授
健康・スポーツ科学センター	吉田 典子 教授
外国語教育研究所	塩津 敏彦 教授
オブザーバー	大庭 卓也 准教授 (文学部)

* 附属図書館長 石川 捷 治教授は御井図書館長を兼ねる。



図書館に来た絵

商学部客員教授 西 土 純 一

前々から図書館に絵が欲しかった。というのは、入口から見て正面の階段左側の壁には商学部父兄会から寄贈を受けた手塚淑子氏の大作が掲げられているが、右側の壁には何もなく、入館する度にあそこにも一枚絵があったらと思っていたからである。

昨年の10月のこと、「実践経営論」の講義終了後、その日の講師で翰林画廊オーナーの高嶋俊光氏に、絵を寄付してくれないか持ち掛けた。彼は卒業生だから気安く話ができる。駄目で元々という軽い気持だったが、帰ってきたのは「いいですよ」、思わず「本当にいいの」と確認すると、「大きいけれどいいですか」、私の返事は「大きい程いい」、これで話は決まった。寄贈された絵は、多摩美術大学教授・室越健美氏の「異郷の花Ⅱ」。このシリーズで作者のイメージする「異郷」とは現世でない理想郷のようなもので、そこにある「花」は虚空の花である。この花を観て何らかの想像力を掻きたてられる人は、鋭い感性の持主に違いない。今度入館した時、階段の前で立ち止まりこの絵と交信してみたら如何。



「異郷の花Ⅱ」

室越健美

寄贈 商学部 18 回生 高嶋俊光氏「翰林画廊」

2011 年 11 月

■ 寄贈図書（学内関係者）

※本学教員著者は閲覧室1階「寄贈図書コーナー」に排架しております。

受入期間：2011/12/1～2012/3/31

寄贈者氏名	書名	著者名	出版者
張 国興	台湾地位與中華民國體制學術研討會		台湾教授協會・台湾新世紀文教基金會
張 国興	どげんなっとう福岡県：何が前進し、何が課題か PARTII	福岡県自治体問題研究所県政研究会編	福岡県自治体問題研究所
張 国興	激動する日台関係の回顧と展望：政治・立法・裁判：民主化に賭ける台湾レポート	有馬元治著	太平洋総合研究所
張 国興	構造改革に求められる視点白書 1	王増祥著	王増祥
張 国興	台湾の経済発展：キャッチアップ型ハイテク産業の形成過程	朝元照雄著	勁草書房
永池 克明	国際企業経営の大転換：激動するグローバル経済と日本企業の挑戦	永池克明著	九州大学出版会
安永 悟	大学教育におけるプロジェクト学習の構造化と不確定志向性（科学研究費補助金（基礎研究 C）研究成果報告書:2007-2009）	安永悟研究代表者	[久留米大学文学部]
吉田 洋一	明清俗語辞書集成 第1輯、第2輯、第3輯	長澤規矩也編	汲古書院
吉田 洋一	関西大学 120 年のあゆみ	関西大学年史編纂委員会企画・編	関西大学
島村 賢一	Autobiographische Aufzeichnungen von Prof. Johann Jakob Bachofen	von Hermann Blocher	[s.n.]
宮松 浩憲	L'origine des menses dans le temporel des églises et des monastères de France au IX[e] siècle	par L'abbé E. Lesne	René. Giard

*敬称略



図書館利用状況(2011年度)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開館日数		29	28	30	31	30	29	31	28	27	26	28	30	347
入館者数	対前年同月比	-2,030	-208	-2,557	-6,679	3,363	719	-986	-1,092	367	-1,902	-1,039	-713	-12,757
	学内者	15,456	16,450	17,072	22,518	11,616	9,024	16,107	16,382	14,479	20,512	4,897	3,700	168,213
	対前年同月比	475	191	2	432	74	169	431	25	330	81	-29	-299	1,882
	その他学外者	2,185	2,545	2,756	2,281	1,918	1,790	2,403	2,064	1,796	1,255	1,279	1,194	23,466
地域住民 登録者数	対前年同月比	-16	-7	-3	-3	-6	-13	-11	-1	1	17	6	-4	-40
	地域住民	48	29	33	30	18	19	19	18	21	30	22	19	306
貸出冊数 (学 生)	対前年同月比	268	663	148	212	397	324	59	-21	182	-100	76	-79	2,129
	全 体	1,998	2,778	2,770	3,084	1,522	1,727	2,883	3,331	3,067	2,633	653	380	26,826
	対前年同月比	23	112	-10	35	111	84	-50	135	129	-107	-18	7	451
	内、夜間	377	634	698	817	273	276	673	968	827	738	45	33	6,359
	対前年同月比	-57	-3	21	35	34	-1	-8	58	74	53	-8	-14	184
	内、土・日曜	156	192	224	297	164	173	250	259	303	232	108	69	2,427
	一人当りの貸 出数	0.32	0.44	0.44	0.49	0.24	0.27	0.46	0.53	0.49	0.42	0.10	0.06	4.25
貸出冊数 (教職員)	対前年同月比	72	6	71	-13	131	62	-18	-116	56	57	53	-70	291
	全 体	343	314	339	319	397	301	310	207	302	322	288	218	3,660
	対前年同月比	29	34	4	-16	47	6	16	-56	-7	-7	5	5	60
	内、夜間	61	105	83	88	64	34	93	56	62	85	24	16	771
	対前年同月比	3	-8	0	-6	85	1	-9	-9	9	3	-4	13	78
	内、土・日曜	30	23	40	22	111	19	27	26	28	30	22	37	415
貸出冊数 (その他 学外者)	対前年同月比	1	22	-43	67	-83	-20	-27	-4	-57	5	5	62	-72
	全 体	279	306	245	149	161	209	261	259	203	48	200	277	2,597
	対前年同月比	8	-22	-55	61	-16	-23	40	-2	-35	-11	-23	31	-47
	内、夜間	89	94	68	82	4	16	119	87	72	0	21	53	705
	対前年同月比	-12	-9	-24	-11	-8	2	-41	5	-55	-5	-58	28	-188
	内、土・日曜	110	107	63	31	56	79	68	92	55	0	59	114	834
AVライブラリー 利用件数	対前年同月比	-21	6	-2	-1	-2	4	4	4	-1	26	5	3	25
	学 生	5	11	8	2	4	5	13	6	6	32	11	3	106
	対前年同月比	6	8	23	8	-14	1	15	1	-1	-14	13	-3	43
	教職員	14	28	39	26	3	11	38	30	10	7	13	0	219
	対前年同月比	-70	-12	-2	-9	-3	-1	0	3	0	0	3	2	-89
	その他学外者	0	0	1	2	0	1	0	3	0	0	3	2	12

相互利用 (文献複写)	対前年同月比	-41	-99	-46	-50	-28	-98	-69	-83	-98	5	-3	-11	-621
	学 生	48	71	35	18	32	20	75	35	66	49	35	13	497
申込件数	対前年同月比	-21	-18	-17	-12	-11	-40	-10	29	-29	-6	21	-6	-120
	教職員	47	31	22	22	30	30	36	73	18	17	44	25	395
	対前年同月比	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相互利用 (現物貸借)	対前年同月比	-2	-9	-1	-10	3	-3	1	-3	2	-1	1	0	-22
	学 生	6	1	2	0	3	1	4	4	9	2	1	0	33
申込件数	対前年同月比	8	3	-10	18	16	6	13	0	-3	7	2	14	74
	教職員	18	15	3	20	20	15	25	9	2	11	7	17	162
	対前年同月比	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<貸出冊数についての注記>

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
2. ”夜間”とは、平日の17:00～21:00の夜間開館時間を指す。
* なお、4月1日～4月8日、8月10日～9月20日、12月27日～12月28日、
1月31日～3月30日の期間は夜間開館を行っていない。
3. 地域住民への貸出は、7月15日～8月9日、1月4日～1月30日の期間は停止している。
4. 学生一人当たりの貸し出し数は、平成23年5月1日現在の御井キャンパスの学生数で算出。



編集・発行 久留米大学御井図書館
〒839-8502 久留米市御井町 1635
TEL (0942) 44-4015
FAX (0942) 43-0348
<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/milib/>